

# 東海大学電気電子工学会報

(題字：創設者・松前重義先生)

## 特集

- ・『電気電子工学会 発足』 詳細記事：2頁に掲載
- ・『ソーラーカーチーム総監督が交代』 詳細記事：7頁に掲載



～お知らせ～

### 電気電子工学会同窓会（懇親会）開催

●日時

平成30年11月3日(土) 12:00～  
(時間は変更になる場合があります)

●場所

東海大学湘南校舎19号館9階  
コミュニケーションエリア

●詳細は右上のQRコードか、

URL <http://www.ep.u-tokai.ac.jp/>  
(電気電子工学会ホームページ)  
をご参照ください。



### 電気電子工学科の実験設備が リニューアル!

詳細は右下のQRコードから

Web版リーフレット

<http://www.ep.u-tokai.ac.jp/leaflet.pdf>

をご覧ください。





## 東海大学電気電子工学会の発足

—「先駆け」と「建学の理念」の実現—

東海大学電気電子工学会 会長 中村 宏

数年前のある日、岡部昭三氏(東海大学名誉教授)から「電気工学会と電子工学・エレクトロニクス同窓会は一緒になったらどうだろうか。」とのお話がありました。

現状の学科名は工学部電気電子工学科であり、日頃からホームカミングデー、卒業研究発表会後の謝恩会などで両同窓会は具体的な交流がありました。また、木村英樹教授、庄善之教授とは、学生および新しいOB、OGが参加した学科同窓会の活性化が必要と考え活動を行ってきました。鳥羽瀬正一氏(元、電子工学同窓会会長)からは、「若い人の考えで進めていけば良い。」との言葉も頂いていました。

母校東海大学は創立七十五周年を迎え、創立百周年に向けての新たな歩みを始めるときにこの、尾郷良幸氏(電気工学会元会長)、田中慶秋氏(同会長)の強い思いも受けて、東海大学電気電子工学会設立に向けた事務局を立ち上げ、何度も合会を開催し議論をしました。

議論の原点は現在の電気電子工学科は、東海大学設立以来存続してきた工学部電気工学科を母体としてお

り、学科設立から既に17年が経過し、これまでの間に2千名を超える卒業生を輩出し、今後も続く人達の学科同窓会の活動の活性化です。

2017年11月3日にそれぞれ同窓会で統合が了承され、本年2018年4月1日に「東海大学電気電子工学会」が新役員体制でスタートしました。学科同窓会の人数は2万3千836名であり、東海大学内でトップです。

母校東海大学は創立者松前重義博士が1936年(昭和11年)に開設された「望望学塾」を母胎として設立されました。その建学の理念は「物質文明と精神文明の調和と融合、世界平和に貢献する。」そして、「先駆け」です。それは長距離電話回線に無装荷ケーブルの使用を提案し、研究、実用化されるときに具体的に示されています。著書「発明記」の中では「着想や創意工夫は単なる頭の良さや、その人の器用さから生まれるものではなく、その人の抱いている思想の根底の上に生まれるものだ」と信じている。そして開発や実用化に当たって「本方式を構成する部品ならびに材料および特許は純国産

のものであること。」という条件をつけました。さらに実験、実用化に向けての試験の段階で既に北半球一周のリンクを発想しています。私はそれを「平和のリンク」と称しています。「先駆け」「文理融合」に「世界平和」が強くみえます。

今、世界では「自分本位のみ」がいたるところにいたる人々に見えます。世界的な戦争に繋がりがかねませ

ん。東海大学の創立思想や教育理念、現代文明論を学んだ私達OB、OGは「歴史観」歴史的な世界の構造やその発展についての体系的見方や世界観「世界全体を関連できる見方、人生観」人生の持つ意味や人生に対する態度についての考え方を培って自分なりにまとまった考えを持つ地道な努力を傾注することだと思えます。

11月3日12時からは、電気電子工学会の総会と懇親会を19号館9階コミュニティエリアで開催します。今年、第1回の記念すべき会です。OB、OGみんなで集まり、懇談、懇親しましょう。また、19号館2階では電気電子工学科の4年生が「エコな電気であそぶ遊ぼう」と題し、子供達に電気の不思議、楽しさを伝える体験型イベントを開催しています。ぜひ、後輩達の活躍を見て頂きたいと思えます。11月3日は母校東海大学に集い、大学時代の懐かしい仲間と一緒に思い出を語る日として欲しいと思います。



2017年度 電子工学・エレクトロニクス同窓会



2017年度 電気工学会総会・懇親会



着任のご挨拶

電気電子工学科准教授 大口英樹

私は2002年3月に東京都立大学大学院にて博士の学位を取得し、2002年4月に富士電機株式会社に入社致しました。大学でパワーエレクトロニクス研究室に配属されてから、会社入社後数年間はパワーエレクトロニクスに関する研究開発に従事し、その後、回転機に関する研究開発に従事致しました。この度ご縁があり、本年4月より東海大学工学部電気電子工学科に准教授として着任致しました。本稿では、パワーエレクトロニクスの概要や、これまでの研究概要、大学における研究、着任にあたっての抱負を述べたいと思います。

パワーエレクトロニクスとは、電力用半導体素子を用いて電力を制御する技術のことを言います。電力を制御するのは電気エネルギーをエネルギー変換することではなく、電力の形態を変換することであり、電力変換とも呼ばれます。パワーエレクトロニクス技術は電力分野のみならず産業、家電、自動車、社会システムなど電気エネルギーを利用する分野の多くに活用されています。電気エネルギーの利用の観

点ではいまや欠かすことのできない技術と言えます。

パワーエレクトロニクス回路は、①直流を交流に変換する逆変換(インバータ)、②交流を直流に変換する順変換(整流器)、③直流電圧を異なる大きさの直流電圧に変換する直流変換(チョップパ)、④交流の電圧、周波数、相数を異なる電圧、周波数、相数に変換する交流変換(サイクロコンバータ、マトリックスコンバータ)の4つに分類できます。学生時代はメガヘルツ帯域で動作するインバータにより、高周波電力伝送に関する研究を行ないました。数式やシミュレーションを基とした理論検討や、実験回路の製作、実機検証を行ないました。会社時代はマトリックスコンバータについて、やはり数式やシミュレーションによる理論検討、実験装置の製作、評価を行ないました。

回転機は、電気機器の教科書にあるように、①誘導機、②同期機、③直流機に大別できます。会社時代は同期機を主として、この中で、インバータで駆動され、回転子に永久磁石を備える永久磁石同期機について

研究を行ないました。たとえば、電流無通電時に発生するコギングトルクと呼ばれるトルク脈動について、解析と実測の整合や、インバータ出力電圧に含まれる高調波を考慮した鉄損の解析と実測の整合、さらには高速回転機の開発を行ないました。

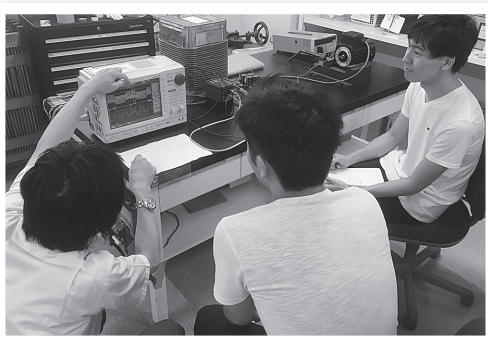
パワーエレクトロニクスや回転機の研究開発を通じて、こうした技術分野の研究開発に従事する上では、理論検討だけではなく、実験を通じて現象を理解することや、机上検討と実機との差異を明確化すること、さらには実験から得られた知見を机上検討にフィードバックすることでシミュレーション精度の向上を果たしていくことも重要であると感じました。

大学における研究は、次世代のパワーエレクトロニクス装置や回転機、あるいは回転機の高効率化を実施したいと考えております。

写真は、次世代のパワーエレクトロニクス装置の位置づけで、インバータに対し、負荷が遠く離れた場所にあるアプリケーションを想定した研究の実験風景です。通常、負荷の状態をインバータが検知するには、インバータと負荷を通信ケーブルにより接続する必要があります。それに対し、本研究では通信ケーブルを接続することなくインバータで負荷の状態を検知することに取り組んでいます。昨年度までの研究において、シミュレーションにより検知可能である結果を得ましたので、本年度はその実験検証を行なっております。

また、国内の消費電力の約6割を電動機が占めていることから、その高効率化が重要な課題と考えております。回転機の損失は、銅損、鉄損、機械損、漂遊負荷損に分類され、大学における研究では漂遊負荷損に着目し、研究を進めたいと考えております。従来は漂遊負荷損を解析的に求める研究があまりなされておりましたが、さらなる高効率化のためにはこれが重要であると考え、電磁界解析による定量化を目指していきたいと考えております。

最後に、これまでの経験を生かして学生を教育し、社会に輩出していきたいと考えております。皆様のご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



実験風景





### 811名の学生に教え、 教えられた7年間

東海大学工学部 非常勤講師 出口忠夫

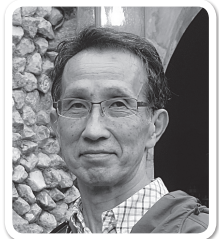
東海大学講師の7年間は「教えることは、実は教えられること」を実感する日々でした。春学期『音響と映像』、秋学期『放送技術』を担当。今やデジタル時代に必須となっている音声や映像の情報圧縮技術と伝送技術、そして次世代メディア4K8K、VR・ARなどをいかに分かり易く伝えられるか腐心しましたが、時々織り交ぜるNHK時代の失敗談の方が学生は真剣に聞いてくれたようです。

もう一つ力を入れたのが、就活のためにも考える力・広い視野を持つことを目指し、毎回15〜20分程度、時事テーマを取り上げ議論すること。テーマは政治・経済・文化・スポーツから教育まで幅広くピックアップ、その都度ミニレポートを提出してもらい、多種多様でハットとする学生の意見に私自身が大変発奮されました。と同時に「先生のおかげで就活に役立ちました」と言われて涙が出るほど嬉しかったものです。また学生に評判が良かったのは「特別授業『東海大学先輩からのメッセージ』と『NHK設備見学』でした。両方とも皆さん食い入る様に聞

き、積極的に質問していたのが強く印象に残っています。今年度前期を終えたところで履修してくれた学生は総計811名にも上ります(1講座平均で60数名)。私の伝えたかったことが学生の皆さんのこれからの人生でほんのちよっぴりでも役立つて貰えれば望外の幸せです。



NHKの心臓部TOCで説明を聞く東海大生



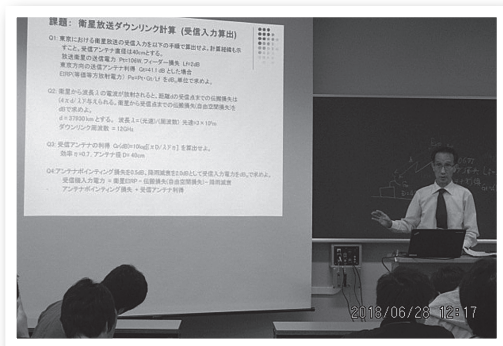
### 非常勤講師としての6年間を終えて

東海大学工学部 非常勤講師 内海三郎

放送衛星システム社(BSAT)勤務の最終年度から衛星通信および、移動体通信の講義を担当させていただきました。NHKおよびB・SATでの衛星開発、運用の経験をもとに講義を展開してきましたが、進展の顕著な分野で、今年12月から開始されるBS4K/8Kテレビなど新たな情報も取り入れて学生諸君とともに勉強してきました。楽しく、有意義な時間を与えていただいた東海大学・教職員の方々に深く感謝いたします。

湘南キャンパスの並木道を歩き講義に向かうときはいつも、学生諸君の自由闊達な会話や集う力から充実したキャンパスライフをまぶしく感じていました。このような素晴らしい大学で、私のつたない講義がお役に立てているのかと不安になることもありましたが、担当した学生の一人が衛星通信の講義に触発されたとのことで、一昨年B・SATに就職し、現在、川口衛星管制センターにおいてBSデジタル放送用の衛星の管制に励んでいます。優秀で明るく、職場に活力を与えてくれて

いると、B・SATからも感謝されています。これは私にとって、何よりもうれしいことです。私は退職しますがNHK/B・SATから引き続き衛星通信の講義を担当する予定だと聞いています。よろしくお祈りいたします。  
電気電子工学会の皆様のご健勝をお祈りいたします。



衛星通信の講義

OB・OG4名が講師となり、電気電子工学科3年生を対象に電気工事と施工管理の講習会を行いました。これは電気工事士の資格取得に向けて、試験のポイントや工具の使い方

です。昨年の夏には、弊社の東海大学OB・OG4名が講師となり、電気電子工学科3年生を対象に電気工事と施工管理の講習会を行いました。これは電気工事士の資格取得に向けて、試験のポイントや工具の使い方

私は卒業後、六興電気株式会社に入社し、建設現場にて電気設備工事の施工管理者として働いています。「女性が現場？」と思う方も多いと思いますが、未だに「電気屋さんで女性珍しいね」なんて言われます。私にとってこの仕事の遣り甲斐は、暗かった現場が受電後にどんどん明るくなっていく瞬間に立ち会えること、そして内覧会にお越しになる入居者の方々をお出迎えることです。現在は、914戸の大型マンションの建設現場を担当しています。これだけ大きな現場になると私にとって初めての施工方法も多く、不安を感じることがあります。しかし、完成に近づくマンションを見て、不安以上にワクワク感が止まらない日々です。

—北から南から—

私、けんせつ小町です!



須田明奈

六興電気株式会社 第二支店第一工事部  
2012年度(平成24年度) 学士修了  
☆青木研究室☆



マンションの建設現場にて

を学びながら、実技試験の練習をしてもらうというものです。4時間程度の限られた講習時間で何ができるか、弊社の講師たちと何度も話し合いやり取りを繰り返す。講習会の準備を行いました。講習会の講師は皆初めてだったため、上手く技術を伝えられるか不安でしたが、講習会後のアンケートで参加者は講習会内容に満足してくれたようです。私は、この講習会の講師を担当して本当に良かったと思えました。最後にこの場をお借りして、お声掛けいただいた先生をはじめ、ご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。また今年も講習会を開催させていただきますが、卒業してからも大学に関わらせていただけることをとても嬉しく思います。

—北から南から—

テレビ局の電波を扱う仕事



大庭誠士

テレビせとうち株式会社 技術局技術部  
2016年度(平成28年度) 学士修了  
☆村野研究室☆

技術操作が業務内容です。

近頃はこれらに加え、サブ業務として素材伝送技術も担当する様になりました。マイクロ波帯を使用したFPU(Field Pickup Unit)や、SNG(Satellite News Gathering)中継車を用いた素材伝送のための設営および

私は2017年3月に学士課程を修了し、同年4月よりテレビせとうちに入社しました。テレビせとうちは岡山・香川を放送エリアとするテレビ東京系列の特定地上基幹放送局です。入社後は送信を担当することになりました。送信とは、番組を各家庭に届ける為の送信所と送信所の電波をエリア内にあまねく届けるための中継局を維持管理する業務です。無線設備は免許を受ける必要があり、また法律で定められた定期検査をおこなう必要もあるため、監督省庁への各種申請や、国に代わって定期検査をおこなう登録点検事業者として検査業務も行います。このような技術的な仕事が行われます。このようなことは決して多くはありませんが、このような業務の積み重ねが日々の放送を支えています。

—北から南から—



岡山県真備町からの中継

7月に発生した西日本豪雨では、岡山県で甚大な洪水被害があり、私達はテレビ東京系列を代表して災害現場からの素材伝送をおこないました。町は変わり果てた姿になっており、猛暑と生臭い臭気が鼻を刺す中での伝送でした。そのような被害状況を伝えることは辛い仕事ですが、目の前の事実を全国視聴者に正確に伝えることは大変重要です。それを技術で支え、実現させることが私の使命であると考えています。業務に従事する上で電磁波に関する基礎知識の習得は必須であり、大学で学んだ知識が私を大きく支えています。これからも東海大学の電気電子工学科卒であることを誇りに持ち、力強く働いていこうと思います。

## —在学生の広場—



電気電子システム工学専攻  
修士2年  
アシアピンティアリフイン  
☆稲森研究室☆

私は、工学研究科電気電子工学専攻の大学院2年生のアシファと申します。日本高等教育プログラムによって、私は大学1、2年生のとき母国のマレーシアの大学で日本語を用いて電気電子工学を学び、その後、3年次から東海大学に編入しました。東海大学を選んだ理由は、マレーシアの大学には東海大学に留学していた先生がおられ、その先生から日本での生活や大学の雰囲気を知ることができました。

私がマレーシアで日本語を勉強していたとき、周りの人は皆マレーシア人であるため実際に日本語を使う機会がほとんどありませんでした。そのため、日本の生活や講義の理解などが心配でした。しかし、実際に日本に来ると、日本人の友達も直ぐに出来、私はその友達に得意な英語を教える代わりに、日本語を教えてもらいました。そのおかげで、しばらくすると日常生活で日本語に不自由なことがほとんどなくなり、日本語を教えることも多くなり、日本語が分らないことも多くあり、そんなときは授業が終わってから単語や文章を翻訳して授業の内容を理解しました。

私が現在大学院で行っている研究テーマはワイヤレス電力伝送です。この技術は電子機器にケーブル(電線)を用いずに電力を供給することができます。私の研究

では、この技術を電気自動車の充電システムに応用する上で必要な性能評価法の開発を行っています。ワイヤレス電力伝送技術が実用化されれば、電気自動車を設備のある場所に駐車するだけで、バッテリーへの充電が可能になります。現在のようにプラグを接続する必要があります。利便性が向上します。

私は来年の3月に修士課程を修了したら、マレーシアへ帰国する予定です。そして、日本で学んだ色々な知識や良い習慣などをマレーシア国民に伝えていきたいと思っています。そのことで、マレーシアの経済や市民生活をさらに良くしたいと思っています。マレーシアでは日本を手本として母国の経済発展をさせるルックイースト政策を実施しています。私が日本でも役立つと思います。



指導教員の稲森先生、先輩の柴田さんと一緒に

## —在学生の広場—



工学部電気電子工学科  
2年次  
兵頭倫果  
☆

私は2017年に東海大学付属望星高等学校を卒業し、同年に東海大学電気電子工学科に入学しました。

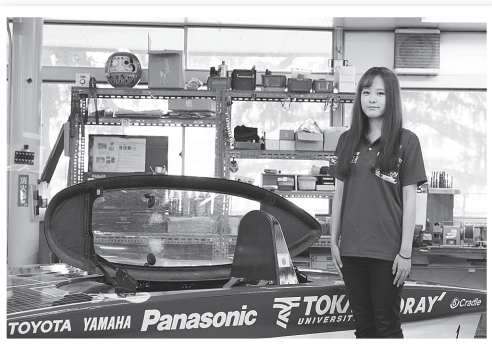
入学してからはチャレンジセンターのライトパワープロジェクトソーラーカーチームで活動しています。このプロジェクトに入るきっかけは、高校生の時にインターネットでソーラーカーが走っている動画を見たことです。太陽光のエネルギーのみで広大な大地を高速で走るソーラーカーは私にとって驚きでした。その時、私もチームの一員となってソーラーカーを作りたいと思いました。これをきっかけに電子電気工学科に進学することを決めました。

チームの一、二年生は主に電気自動車の整備を行います。電気自動車の整備法を先輩から教えてもらう過程で、私は次第に整備だけではなく、ドライバーとしてレースに参加したいと思うようになりました。そのとき私以外にもドライバーの候補者が数人おられました。そのため私がドライバーを務められるか不安でしたが、電気自動車の技術を学ぶとともにレースドライバーとしての運転技術の向上に努めました。その結果、今年5月に秋田で行われた電気自動車の大会にドライバーとして出場することができました。レース中はいくつものトラブルが発生しましたが、チーム全員でそれらを乗り

り越えて無事完走しました。

私達のソーラーカーチームでは、毎年海外のレースに参加しています。今年は南アフリカ共和国でレースが行われますが、私はまだ二年生であるため、そのレースには参加しません。来年はオーストラリアでレースが開催されます。来年のレースには私も参加し、チームメンバーと一緒に優勝を目指したいと思っています。

プロジェクト活動のほかに、週末には大好きなテーマパークで接客のアルバイトをしたり、趣味のピアノを弾いたりして、とても充実した大学生活を送っています。将来は、授業で学んだ知識とチームで学んだものづくりの経験を生かして、テーマパークのアトラクションやショーなどで使用される機器の整備士となり、それらを裏で支える仕事に就きたいです。



チャレンジセンターものづくり館にて





## 東海大学ソーラーカーチーム

### 総監督就任について

東海大学電気電子工学科 助教 佐川耕平

#### 1、はじめに

この度、私は木村英樹教授より総監督の任を引継ぎ、歴史ある本学のソーラーカーチームを牽引させていただくこととなりました。

総監督としての初戦は、2018年9月末に、南アフリカ共和国で開催される、「Saoi Solar Challenge」となっております。本会報が発行される頃には、良い結果を皆様にご報告できるような、奮闘していきたいと思っております。

#### 2、私とソーラーカーの出会い

東海大学の教員としての日が浅く、皆さまに御認識していただくために、私の経歴と、ソーラーカーとの関りを紹介させていただきます。

私は、1997年に東海大学付属工業高等学校(現・静岡翔洋高等学校)電子工学科に入学しました。そこで、自動車工学科に入学し、ソーラーカーと出会いました。

1999年、私が3年生の時に、ソーラーカー関係者が憧れる世界最高峰のレース、「World Solar Challenge」に参戦する機会を得られ、豪州の大地3000kmを6日間かけて無時走破しました。この時の結果は、総合13位と、世界の壁を高く感じました。一方で、一から手作りした自分たちの車体が、過酷な3000kmの荒野を走り切った

という事に大きな感動を覚え、将来的にこのような仕事に携わりたいと強く感じるようになりました。

#### 3、大学以降の活動

付属という事もあり、本学工学科の電子工学科に進み、勉学に励む一方で、2年生の時、木村教授からの突然の電話で、「電気自動車と一緒に作らないか」とのお誘いを受け、現在に続く木村佐川コンビが誕生しました。

また、松前義昭理事長が立ちあげられたソーラーカーチームや、一般公認サークルの「ソーラーカー研究会」をサポートする一方で、高校の部活動をOBとして技術指導を続け、ギリシャや、マレーシア、台湾などの海外のレースにも参戦し、文字通りソーラーカー一色の大学生活を大学院含め、7年間過ごしてきました。

その後、富士重工工業㈱に就職し、希望した研究所で、電気自動車の研究開発に約10年間携わっております。就職してからは、毎週のように金曜日の夜に大学へ向かい、日曜日の夜または、月曜日の朝まで、大学のものづくり館でソーラーカーの製作や技術指導を続けており、どちらが本職かと上司によくからかわれていました。

ソーラーカーを始めて約十年、2009年に人生2回目のWSCは、私の人生にとっ

て忘れられないレースとなりました。当初、我々は、上位3位に食い込めれば上出来と考えており、個人的にも、また夢の舞台に参加できることが何よりも嬉しく、無我夢中で車体製作を進めていました。レースが始まる状況が一変し、初日から首位に立ち、そのまま一度も抜かれることなく優勝することができました。今でも、ゴール地点で、涙ながらに大学へ御報告する木村教授の姿が鮮明に覚えています。当時優勝できたのは、企業の厚い御支援の他、OBやその他、支援者からの御協力、メンバーのあきらめない気持ち、どのチームよりも強かったためと感じています。

#### 4、これからのチーム運営について

2011年の優勝や、2013年以降も常に上位に入賞し続けており、東海大学は今や有数の強豪チームとして、世界に名を刻み続けています。一方で、常に世界の上位を目指し続けた弊害として、学生に高い敷居を感じさせてしまっていることがあります。大学へ入学し、いきなり世界に通用するソーラーカーを製作するには無理があります。また学生は、4年間で卒業してしまいうため、技術者としての脂が乗り始める頃に大学を去ってしまいます。この連鎖から脱却するためには、今以上に、企業との連携を強め、学生の質を高め続けていく必要があります。

今現在、本チームを卒業し、日本ケミコンに就職された菊田剛広氏や、ミツバに就職された、竹内豪氏は、卒業後にも製作の指導や、レースのサポートをさせていただいております。また、パナソニックやKYBや飯田通商などの企業にも数多く本学を卒業した方々が在籍され、ソーラーカーチー

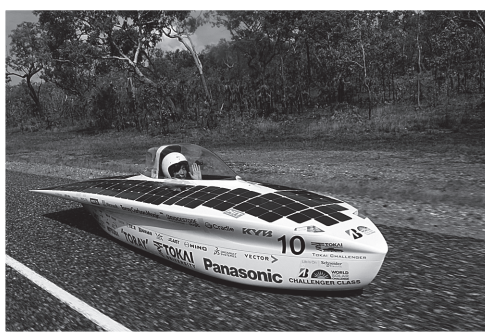
ムに御支援をいただいております。この他にも本学を卒業したOBが各方面で活躍されており、数多くの企業から様々な形で本チームを支えていただいております。

御支援をいただいている一方で我々は、それに甘え、広報面以外でのフィードバックがしきれずにいます。

我々の活動を支援していただいている企業ならびに同窓会の皆様とともに、学生を育成する環境を整え、世の中で躍進する人材を輩出し続けることが私、総監督の責任と考えております。

世界トップに通用するソーラーカーチームの強化と、それを支える人材の育成に尽力し、東海大学と御支援いただいている企業のブランドを高められる活動をしていきたいと思っております。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



オーストラリアを疾走するソーラーカー(ドライバーは筆者)

# 教室だより

## 大口英樹先生が就任



大口英樹 准教授

大口先生が本年4月1日付で学科に准教授として就任されました。先生は、パワーエレクトロニクスと回転機の研究開発をご専門とされています。これらの分野は、電気エネルギーの有効利用に不可欠であり、今後益々重要になります。大口先生は、これまでの経験に基づいた教育研究活動を行なうと確信しています。ご就任のお祝いとともに、今後ともよろしくお願ひします。

## 鈴木 舞氏が就任



鈴木 舞氏

鈴木舞氏が本年4月1日付で技術員として就任されました。鈴木氏は本科の卒業生であり、卒業後は企業で電気設備工事の監督業務を行っていました。学科の授業では、同期発電機等の実験を担当しており、監督業務の経験から、学生への安全管理の指導を積極的に進めてきています。ご就任のお祝いとともに、今後ともよろしくお願ひします。

## 青木秀憲先生が退職



青木秀憲 教授

青木先生が本年3月31日付をもって退職されました。青木先生は本科の電気工学科をご卒業され、その後助手として

就任されました。就任当初は、高電圧工学関係の研究をなされてきました。近年は電力工学の研究を積極的に取り組まれ、遺伝的アルゴリズムなど最先端の理論と手法を用いて、電力需要予測などの研究を行っていました。青木先生のこれまでのご苦勞に対して心より感謝いたします。

## 森本雅之先生が退職



森本雅之 教授

森本先生が本年3月31日付をもって退職されました。森本先生は当学科に電気自動車の実験設備を導入するなど学科に新しい研究分野を取り入れることに尽力されました。ご自身は、パワーエレクトロニクスや回転機の研究を精力的に行われました。その研究成果は、学会から高く評価されています。また、学科では学生指導をときに厳しく行い、森本先生から指導を受けたOB、OGの方々も多いことと思います。森本先生のこれまでのご尽力に対して心より感謝いたします。

## 山口高志氏が退職



山口高志氏

山口氏が本年3月31日付をもって退職されました。山口氏は電気工学科卒業後、技術員として大学に就任しました。電気工学科が専門で、学科が9号館で教育研究活動を行っていた時、皆さんが実験の授業で使用していた回転機等の実験機器は山口氏の作製によるものです。山口氏のこれまでのご苦勞に対して心より感謝いたします。

## 松田年生氏が退職



松田年生氏

松田氏が本年3月31日付をもって退職されました。松田氏は電気工学科のご出身で、当学科と通信工学科の技術員として活躍していました。学科改組、カリキュラム改訂等で、当学科が電気通信分野の授業を開講する際には、松田氏が実験設備等を準備して下さいました。松田氏のこれまでのご尽力に対して心より感謝いたします。

## 稲森真美子先生が昇格



稲森真美子 准教授

稲森先生が本年4月1日付で准教授に昇格されました。稲森先生は通信関係がご専門で、最近では通信と電力工学を融合した分野にも積極的に活動の場を広げています。また、マレーシアからの編入学生の受け入れ業務など国際的な活動も行っています。稲森先生の益々のご活躍に期待しています。

## 平成29年度電気工学会賞

電気工学会では、毎年新卒業生の中から、特に優れた学業成績を修め、人格的にも優秀な学生に対して、電気工学会賞を授与しています。今年度の受賞者にはつぎの3名が選ばれました。

### 電気電子工学科

- Iクラス 萩原航輔
- IIクラス 福住達郎
- IIIクラス 土屋順平

なお、総長賞をはじめとする各賞の受賞者、ならびに電気学会から授与された受賞者は次のとおりです。

- 総長賞 加藤翔太
- 山田守賞 菅野ひかる
- 大槻喬賞 鄭 桓伍

- 電気学術奨励賞 喜田悠介
- 電気学術女性活動奨励賞 秋澤光希

### ▼おしらせ

電気電子工学会が発足にともないまして、1976年創刊の『東海大学電気工学会報』は、2017年発行の第42号にて休刊とさせていただきます。永きにわたりご愛読いただきましてありがとうございました。

### 発行所 東海大学電気電子工学会 事務局

〒259-1292 平塚市北金目4丁目1番1号  
東海大学湘南校舎 電気電子工学科内  
電話 0463-58-1211 (内線) 4014  
FAX 0463-59-4014

●東海大学電気電子工学会ホームページ

<http://www.ep.u-tokai.ac.jp/>

●年会費及び寄付金納入先

■郵便振替口座

【口座番号】 00140-3-47682  
【加入者名】 東海大学電気工学会